

大妻女大家政 ○高部 啓子、桐原 美保、松山 容子  
 大妻女大人間生科研 布施谷 節子、植竹 桃子

目的 今日の日常生活において着用される衣服は、大部分が既製衣料に依存している。既製の製造技術の進歩はめざましく、一人ひとりの注文に沿って作られる個別生産も近い将来現実のものとなろう。その場合は、個人のからだつきの特徴をよりよく表現する適切な情報の入力が必要である。衣服の人体形態への適合を検討する場合、洋服は肩で着るとも言われるように、体幹上部、特に肩胸部のよりよい適合が重要と思われる。そこで本研究では、この部位に関する身体計測値を解析し、型紙設計に取り込む必要のある形態的要因を明らかにしようとした。

方法 被験者は、健康な大学女子学生123名である。1990年6～7月および11月に身体計測を実施し、同時に写真撮影を行った。頸椎点レベルから後胴囲線レベル、及び左右の腕付根線に囲まれた体幹上部の直線距離、体表長、横径、矢状径、周径をとりあげ解析した。まず項目間の関係及び個体差を検討し、次いで変数を変えながら主成分分析を繰り返して要因の抽出を試みた。

結果 ①主成分分析に用いる変数の数や組合せを変えても、最初の3つの主成分には体幹上部のボリューム、体幹上部の丈、肩胸部の幅を表す成分が抽出され、型紙設計における基本的製図を、胸囲、背丈、背肩幅で行うことの妥当性を示したものと言える。

②第4主成分以降には、肩胸部幅の前後関係、体幹上部丈の前後関係、腕付根、頸窩、乳頭などの位置および肩傾斜を表す成分が独立に抽出された。これらは個体のからだつきによりよく適合した洋服を製造するために取り込むべき情報である。